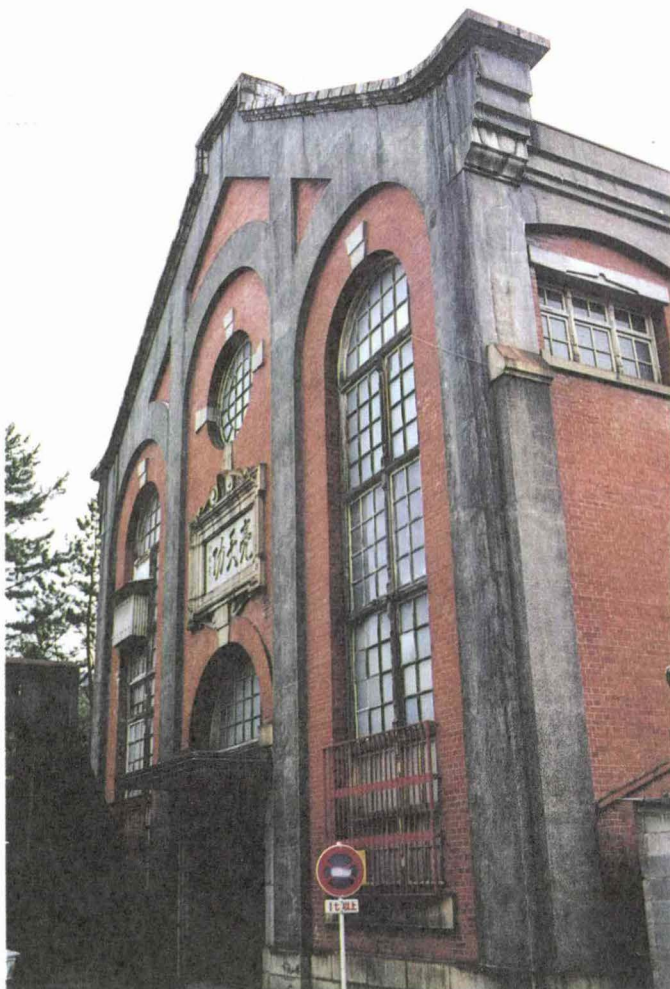


# 京大広報

No. 445

京都大学広報委員会



旧蹴上発電所建物入口の「亮天功」石額  
—関連記事本文530ページ—

## 目 次

修士学位授与式における総長の  
ことば……………520

卒業式における総長のことば……………521

<大学の動き>

平成4年度修士学位授与式……………523

平成4年度卒業式……………523

平成5年度入学者選抜学力試験  
の結果……………524

平成5年度医療技術短期大学部  
入学者選抜試験の結果……………525

平成4年度医療技術短期大学部  
卒業式・修了式……………525

写真集企画委員会の報告について…525

部局長の交替等……………525

<栄誉>

理学部 神保道夫教授が  
日本学士院賞を受賞……………527

計報……………528

<資料>

平成4年度京都大学職員研修実施  
状況及び平成5年度京都大学  
職員研修実施計画……………528

<コラム>

亮天功  
化学研究所教授 井上 信…530

## 修士学位授与式における総長のことば

平成5年3月23日

総 長 井 村 裕 夫

本日ここに前総長、名誉教授の諸先生、各研究科長、教職員の御臨席を得て、それぞれの専攻にかかる修士の学位記をお渡しすることができましたことは京都大学として誠に喜びとするところであります。

本日修士の学位を得られた諸君は1,161名であります。本年は京都大学に初めて設置された独立研究科である人間・環境学研究科から31名の修士が誕生しました。発足後間もなくで設備などにも恵まれない中でめでたく修士の課程を終えられた諸君に心からの祝福を贈りたいと思います。また文学61名、教育学21名、法学14名、経済学18名、理学175名、薬学46名、工学638名、農学157名の修士諸君に今日までの御努力に敬意を表し、心からのお慶びを申し上げます。とくに53名の留学生の方々には言葉の問題もあって大変であったと思います。心からおめでとくと申し上げます。

諸君の中には今後大学院の博士後期課程に進み、更に研究を続ける人もあります。また大学院以外の研究機関で研究に従事する人もありますし、それ以外の仕事に就く人もかなり多いと思います。しかしいずれの道に進むにせよ、今後とも研究に直接または間接にかかわっていくと言ってよいでしょう。世界を舞台に活躍する人もあると思いますが、多くの人々は広い意味でわが国の今後の研究の一翼を担うことになります。

昨年、世界を代表する科学雑誌が、日本の科学の特集を行いました。わが国の科学がそれだけ注目されるようになったことは喜ぶべきではありますが、内容を読みますとわが国へのかなり痛烈な批判がありました。その内容にはここでは触れませんが、私が気づいたことの一つを申し上げたいと思います。それは生命科学の領域でも、物理・化学・地球科学の領域でも、わが国の一流大学の論文数、これは国際的な雑誌に発表された論文数であります。その数はアメリカの大学に匹敵するというであります。すなわち論文数で見れば、日本はヨーロッパを抜き、アメリカに追いついたと言えます。しかし日本からの論文が、世界の研究者によってどの程度引用されたかという引用数を見ますと、まだアメリカよりは大幅低いのであります。そこで『Current Contents』という雑誌に掲載された生命科学の領域でよく引用された論文100の調査を集計しますと、アメリカが圧倒的に強く、2番目がイギリスで、ついで日本がフランスが、年によって違いますが3位であります。アメリカ人は概して外国人の論文の引用を好まないという傾向もありますし、また論文総数がアメリカが多いということもあります。しかしこれらの点を差し引いても、なおアメリカと日本の間に大きい差があることは間違いがありません。それは独創的な論文が日本にはまだ少ないことを意味しています。

それでは日本人には独創性が少ないのでしょうか。明治時代、人々が欧米の文明の導入に躍起となっていた頃、この疑問を自らに鋭く問いかけた人があります。それは京都帝国大学文科大学の初代学長、現在風に言えば京都大学文学部長であった狩野亨吉先生であります。狩野亨吉先生は終生独身で通し、晩年は官を棄てて市井に隠れ棲み、古書の世界を楽しんだ人であります。自称して「私は古本屋だ」と言われた程、先生は古書に詳しい人でありました。そして江戸時代に独創性を発揮した何人かの学者を発掘し、世に紹介しました。とくに江戸時代の思想家、安藤昌益の自筆の稿本“自然真営道”の研究は有名であります。安藤昌益は第二次世界大戦後ハーバート・ノーマンによって紹介され、世界的にも大変有名になりましたが、当時の将軍を始め権威を徹底的に否定し、万民平等の大変独創的な思想体系を作り上げておりました。カール・マルクスより100年も古い時代であります。また、狩野先生は、重商主義を説き農民の負担を減らして国を富ませることを説いた本多利明、ニュートンの万有引力の法則を紹介し独創的な太陽系成立説を唱えた志筑忠雄なども見出しておられます。司馬遼太郎さんの言葉を借

りると、こうした独創性のある人々が江戸時代にいたことを知って狩野は漸く安堵し、わが国第二の帝国大学を作ることの意義を納得して、その創設に加わったということになります。

狩野亨吉先生が文科大学長であったのは2年ほどでありましたが、京都大学に大きい影響を及ぼしたと言えます。当時の常識に反して、帝大卒の学歴を持たなかった内藤虎次郎（湖南）先生の京都大学招へいに大変努力をされました。また西田幾太郎先生が京都大学へ来られたのは狩野先生がやめられて2年たってからであります。この人事にも狩野亨吉先生は関係があったとの説もあります。いずれにしろ内藤、西田両教授は欧米の学問に追随することなく、それぞれ新しい方法論で研究し、独得の学問体系を作りあげられました。こうしたことを考えますと、日本人に独創性がないとする考えはあたらなないと思います。

20世紀前半の日本は大きい誤りをおかし、戦争によって国を焦土とただけでなく、近隣の諸国に大きい迷惑をかけてしまいました。自信を喪失し敗戦のどん底にあえいでいた日本人の眼に、欧米とくにアメリカの文化と科学技術は眩しい程秀れたものに映りました。一日も早くそのレベルに追いつくため、多くの留学生がアメリカに渡り、その導入につとめました。独創より模倣が先行してしまったのであります。そして日本人はいまだにその習性から抜け切っていないように思われます。しかし戦後ももはや50年に近くなり、日本はいま世界一と言ってよい程の工業国になりました。戦後の体制は、国際的にも国内的にも大きい転換期にさしかかっています。いまこそ我々は新しい世紀にふさわしい新しい文化を創造し、新しい科学技術を発展させねばならない時であります。安藤昌益や本多利明のような、また内藤湖南や西田幾太郎のような創造性が求められています。

もとより独創的な研究をすることは決して容易ではありません。それを目指して努力しても成功する場合はむしろ少ないでしょう。私が諸君に言いたいことは、たとえさやかでもよいから物真似でない自分自身の考えを持ってほしい、人とは異なった視点で、異なったアプローチで仕事をしてほしいということです。

21世紀は“知”が価値を持つ時代になることは疑いがありません。諸君の活躍すべき場は大変大きいと言えます。今後の活躍を祈って私の祝辞と致します。

## 卒業式における総長のことば

平成5年3月24日

総 長 井 村 裕 夫

本日ここに元総長、前総長、名誉教授の諸先生、各学部長、教職員、御父兄などの御臨席のもと平成4年度京都大学卒業式を挙行し、2,651名の新学士を世に送り出すことができましたことは、誠に喜びとするところであります。御多忙の中、卒業生に祝福を送るべく御参列いただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

卒業生諸君、本日はおめでとうございます。小学校入学以来の長い学校生活を了え、いま諸君は希望に胸をふくらませながら人生へのスタート台に立とうとしています。自分の選んだ人生に挑戦するのだという緊張感が、諸君の心を昂揚させているでありましょう。時はまさに春、そして諸君も人生の春の真っ只中にいます。

春という私は『新唐詩選』（岩波新書）の冒頭にある杜甫の詩を思い起こします。“江は碧にして鳥はいよいよ白く、山は青くして花は然えんと欲す”。諸君はいま人生の春にあり、花はまさに燃えようとしています。しかし美しい花は来たるべき結実の秋のためのものであります。しかも花の季節は決し

て長くはありません。杜甫の詩も“今（こ）の春も看（ま）のあたりに又過ぐ”と続いています。この限られた花の季節をどのように生きるか、諸君はいまそれを考えるべき人生の最も重要な時期にあります。もとより人生はマラソンにもたとえるべき長いレースではありますが、どのような分野に進もうともこれからの10年が最も重要であることに疑いはありません。それは人生の目標を見定め、それに向けて心に情熱の灯をともしべき時です。これからの10年間の蓄積は将来必ず大きい意味を持つであります。それだけにこの時期を大切にしてほしいと願っています。

諸君が活躍するのは、主として21世紀であります。新しい世紀がどのような時代になるかは予測することが困難であります、いくつか懸念されることがあります。その一つは世界の人口増加と工業化のため地球環境が危機に瀕することです。人類は環境問題に真剣に取り組まねばなりません。第二に世界は益々一体化し、人の交流も活潑になりますが、同時に各民族がそれぞれの独自性を強く主張し、異なる文化や宗教を持つ人々との摩擦は激化するであろうということでもあります。第三に科学技術は益々進歩し人類はその恩恵を享受するではありますが、その面で南北較差は一層大きくなるのではないかと懸念されます。このような時代を生きる諸君に、私は二つのことを申し上げたいと思います。

その一つは豊かさの意味を問い直し、自らの欲望をコントロールせよということです。人間には様々な欲望があり、それが活力の源泉、進歩の原動力になっています。しかし欲望が充足されてもそれだけで幸福になるものでは決してありません。古来わが国では清貧が尊ばれました。徒然草の吉田兼好は“身死して財（たから）残すは智者のせざるところなり”と述べています。西行、良寛、芭蕉など所有を最小限にして内的自由を求めた人々は一つの理想的な生き方と考えられてきました。しかし戦後日本が豊かになるにつれ、清貧の思想も軽侮の対象になったように思われます。私はいま諸君に清貧に甘んじよと言っているわけではありません。しかし“腹八分目に医者いらす”と言われるように、自分の欲望を八分目で自制せよということを行っているのです。“腹八分目”などという俗な諺を持ち出しましたが、これは古代ギリシャの時代から心ある人には知られていた真理であります。紀元前6世紀の叙事詩人テオグニス“飢餓よりも飽満が、はるかに多くの人々を滅ぼした”と歌っています。金銭のもたらす悪と墮落と不幸を警告しているわけです。古代ギリシャと違って現在の日本は豊かになったのだから、思うままに贅沢をしても悪くないのではないかという意見もあるでしょう。しかし日本人が消費するものの原材料はほとんど発展途上国からの輸入ですから、消費の増加は直ちに地球環境の破壊につながります。地球は生物の薄い層で包まれているが、その層は極めて不安定なものであります。私たちは今大変貪欲な“所有する文明”からの脱却をはからねばなりません。物質的な豊かさよりも精神的な豊かさを求めるべき時期に来ています。精神的な豊かさとは自由で、創造的な生き方を言うのではないのでしょうか。

私が諸君に申し上げたい第二のことは、本当の意味で国際人になれるということです。21世紀には、わが国に外国から一層多くの人々が来るようになると思われます。また日本人が世界の各地で活躍する機会がますます多くなるでしょう。しかし英語やその他の外国語が話せて外国へしばしば行くから国際人であるというわけでは決してありません。本当の意味の国際人とは自らの文化に十分な自覚を持ち、異なる文化にできるだけの理解と寛容を示し、しかも物事を総合的に、そして批判的（クリティカル）に思考できる人と言ってよいかも知れません。これはなかなか難しいことでもあります。

一例をあげますと最近日本でよく使われる言葉、“国際化”の英語は“to internationalize”と考えがちです。しかし両方の意味は違うのですよということを私はある外交官の人から教えられました。辞書をひいたり、その他の本で調べてみますと、internationalize という言葉は他動詞で、ある土地を二国以上で共同統治するという意味に用いられるわけです。ところが日本語の“国際化”は世界に通用するという意味に用いられます。通常自分を変えて世界の中に適応していくという意味を持った自動詞に使われます。英語の international という言葉自身も、もともと法律のための造語であって、この言葉には長いそして苛酷な歴史も秘められています。異なる歴史、異なる文化、異なる言語をもつ者との相

互理解は、このように難しいものであります。

このような国際化時代に生きる諸君は、何よりも広い視野を持ち、批判的に物を考える力を身につけてほしいと思います。教えられたことを鵜呑みにしたり、ある一つの思想を盲信したりすることなく、自分で問題意識をもって考え、しかもその考えを論理的に表現できるよう努力してほしいのです。現在の日本の技術力は大変秀れていて、今後も世界で大きい位置を占めていくであります。それとともに日本は国際舞台で大きい責任も負わねばなりませんし、日本人も堂々とその考えを発言しなければなりません。真の国際人となれというのはそのためであります。

諸君の学んだ京都大学は本年で創立96周年を迎えます。京都大学は時流に迎合せず、時には権力に抵抗して自主独立の精神を守ってきました。最近人文科学、社会科学の分野で脱中心化、あるいは距離化という言葉がよく使われます。この言葉は既成の考え方から一步身を引いて、それを相対化して見ることの重要性を示しています。京都大学は脱中心化の精神をもって独自の学問を育て、批判的な思考力を培ってきました。諸君は学生生活を通じて京都大学の学風の一端を学んだことと思います。

どうか今後とも広く世界に目を向けながら、学び考えることを怠らず、豊かな国際性をもった人間に成長してください。諸君の人生が幸多いものであることをお祈りして私のお祝いの言葉とさせていただきます。



### <大学の動き>

#### 平成4年度修士学位授与式

3月23日(火)午前10時から、平成4年度修士学位授与式が、本学総合体育館で挙行された。

学位授与式は、名誉教授はじめ来賓出席のもとに行われ、学位記授与、「総長のことば」が行われ、午前10時30分終了した。

本年度の修士課程修了者は、文学研究科61名、教育学研究科21名、法学研究科14名、経済学研究科18名、理学研究科175名、薬学研究科46名、工学研究科638名、農学研究科157名、人間・環境学研究科31名の計1,161名であった。

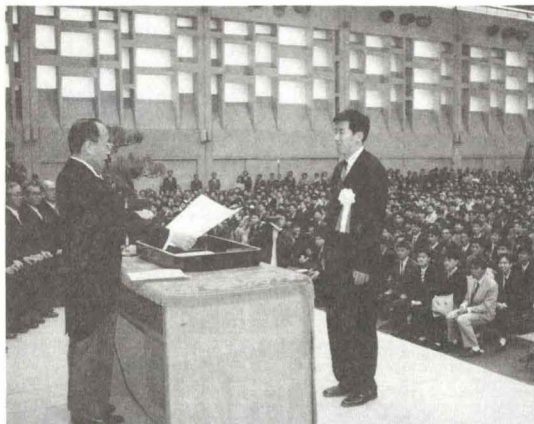


#### 平成4年度卒業式

3月24日(水)午前10時から、平成4年度卒業式が、本学総合体育館で挙行された。

卒業式は、名誉教授はじめ来賓出席のもとに行われ、学歌斉唱(京都大学音楽部交響楽団、京都大学合唱団が協力)、学位記授与、「総長のことば」のあと、「螢の光」を斉唱して、午前10時45分終了した。

新学士は、文学部216名、教育学部53名、法学部421名、経済学部260名、理学部290名、医学部116名、薬学部94名、工学部891名、農学部310名の計2,651名であった。



## 平成5年度入学者選抜学力試験の結果

平成5年度入学者選抜学力試験（第2次学力検査）の前期日程試験は、2月25日(木)・26日(金)に、後期日程試験は、3月13日(土)・14日(日)に実施した。

学部別の受験者数、合格者数及び入学者数等は次表のとおりである。

学 部	(A) 募集人員	(B) 志願者数	(C) 倍率 (B/A)	(D) 第1段階選 抜合格者数	(E) 受験者数	(F) 倍率 (E/A)	(G) 欠席者数	(H) 欠席率 (%)	(I) 合格者数	(J) 追加合 格者数	(K) 入学者数
総合人間	130人	人		人	人		人		人	人	133人
前期	文系	55	289	5.3	282	277	5.0	5	1.8	55	
前期	理系	55	259	4.7	256	249	4.5	7	2.7	56	
後期		20	302	15.1	160	64	3.2	96	60.0	22	
文 学 部	240										246
前期	205	664	3.2	659	650	3.2	9	1.4	211		
後期	35	502	14.3	294	119	3.4	175	59.5	38		
教 育 学 部	70										73
前期	50	207	4.1	198	196	3.9	2	1.0	52		
後期	20	166	8.3	159	108	5.4	51	32.1	21		
法 学 部	410										418
前期	350	1,030	2.9	1,030	1,017	2.9	13	1.3	356		
後期	60	740	12.3	546	215	3.6	331	60.6	64		
経 済 学 部	270										271
前期	一般	170	581	3.4	581	572	3.4	9	1.5	172	
前期	論文	60	410	6.8	270	259	4.3	11	4.1	60	
後期		40	521	13.0	405	198	5.0	207	51.1	46	
理 学 部	326										326
前期	294	918	3.1	888	878	3.0	10	1.1	294		
後期	32	1,108	34.6	1,078	742	23.2	336	31.2	32		
医 学 部	100										102
前期	90	415	4.6	377	367	4.1	10	2.7	93		
後期	10	333	33.3	275	172	17.2	103	37.5	10		
薬 学 部	80										90
前期	60	164	2.7	164	159	2.7	5	3.0	62		
後期	20	277	13.9	255	150	7.5	105	41.2	29		
工 学 部	1,060										1,057
前期	947	2,654	2.8	2,648	2,615	2.8	33	1.2	947		
後期	113	1,344	11.9	1,341	701	6.2	640	47.7	116		
農 学 部	325										333
前期	260	712	2.7	711	705	2.7	6	0.8	273		
後期	65	929	14.3	652	341	5.2	311	47.7	66		
小 計	2,596	8,303	3.2	8,064	7,944	3.1	120	1.5	2,631		
後期	415	6,222	15.0	5,165	2,810	6.8	2,355	45.6	444		
計	3,011	14,525	4.8	13,229	10,754	3.6	2,475	18.7	3,075		3,049

(注) 1. 受験者数・欠席率は最終教科のものである。

2. 法学部（後期）と経済学部（後期）には、外国学校出身者のための選考試験の募集人員20名以内と10名以内、志願者62名と46名、第1次選考合格者34名と26名、受験者25名と21名、欠席者9名と5名、合格者16名と9名、入学者14名と5名がそれぞれ含まれている。

## 平成5年度医療技術短期大学部 入学者選抜試験の結果

医療技術短期大学部では、平成5年度入学者選抜試験を3月4日(木)、5日(金)に実施し、その合格者氏名を14日(日)に発表した。

受験者数及び合格者数等は次のとおりである。

学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
看護学科	80人	194人	163人	98人
衛生技術学科	40	272	239	50
理学療法学科	20	171	149	28
作業療法学科	20	114	98	30
計	160	751	649	206

(医療技術短期大学部)

## 平成4年度医療技術短期大学部 卒業式・修了式

医療技術短期大学部では、3月17日(水)午前10時から、本短期大学部講堂において来賓の臨席のもとに、短期大学部卒業式及び修了式を挙行了した。式は卒業証書・修了証書授与、学長式辞、来賓祝辞と進行し、午前11時終了した。卒業生は、看護学科75名、衛生技術学科39名、理学療法学科13名、作業療法学科13名で、修了生は、専攻科助産学特別専攻20名の計160名であった。

(医療技術短期大学部)

## 写真集企画委員会の報告について

このたび、写真集企画委員会から下記のとおり報告がありましたので、お知らせいたします。

なお、今後は本報告に則り、京都大学写真集(仮題)の刊行に向けての体制づくりを進めたいと考えますので、関係各位の一層のご協力をお願いいたします。

平成5年3月9日

総長 井村 裕 夫

平成5年3月8日

総長 井村 裕 夫 殿

京都大学写真集企画委員会

委員長 新田 博 衛

京都大学写真集企画委員会の

報告について

本委員会は、本学の歴史に関係する写真等資料の収集・整理・保存について検討を行い、併せて「写真集」の編集・刊行に関する手続き等を検討することを目的として昭和62年7月21日に設置されました。(「京都大学写真集に関する答申」京大広報 No.327 参照)

このとき以来、京大広報等を通じ、また各部署のご協力を得て、本委員会は上記の目的達成へ向けて鋭意努力を重ねてまいりました。平成3年12

月にはそれまでの活動の中間報告と将来の収集に向けての呼び掛けを兼ねて「写真展—京大の情景—」を附属図書館において開催することができました。この間、各位のご理解とご協力により、本委員会は現在約三千点の資料を収集するに至っております。

これらの成果をふまえ、去る2月19日に開催の本委員会において審議の結果、「今後は1997年の本学百周年に向けて速やかに京都大学写真集の編集・刊行活動を記念事業の一環として開始すべきである」と考える。従って、本委員会設置の目的は一応達成したという認識から、ここに発展的に解消し、今後新たな写真集の編集・刊行に向けての具体策を講じる必要がある。」との結論に達しました。

上記のとおり報告いたしますとともに、関係各位のこれまでのご協力を厚くお礼申し上げます。

## 部局長の交替等

### 総合人間学部長

木下富雄総合人間学部長の任期満了に伴い、その後任として児嶋真平総合人間学部教授(物質環境論講座担当)が4月1日総合人間学部長に任命された。任期は平成7年3月31日までである。

**文学部長**

中川久定文学部教授（フランス語学・フランス文学第一講座担当）が4月1日文学部長に再任された。任期は平成6年3月31日までである。

**法学研究科長・法学部長**

佐藤幸治法学研究科長・法学部長の任期満了に伴い、その後任として鈴木茂嗣大学院法学研究科教授（刑事法講座担当）が4月1日法学研究科長・法学部長に任命された。任期は平成7年3月31日までである。

**経済学部長**

瀬地山 敏経済学部長の任期満了に伴い、その後任として浅沼万里経済学部教授（開発経営組織政策講座担当）が4月1日経済学部長に任命された。任期は平成6年3月31日までである。

**理学部長**

丸山和博理学部長の任期満了に伴い、その後任として佐藤文隆理学部教授（核エネルギー学講座担当）が4月1日理学部長に任命された。任期は平成7年3月31日までである。

**医学部長**

佐々木和夫医学部長の任期満了に伴い、その後任として菊池晴彦医学部教授（脳神経外科学講座担当）が4月1日医学部長に任命された。任期は平成7年3月31日までである。

**医学部附属病院長**

山室隆夫医学部附属病院長の任期満了に伴い、その後任として吉田 修医学部教授（泌尿器科学講座担当）が4月1日医学部附属病院長に任命された。任期は平成7年3月31日までである。

**工学部長**

中川博次工学部長の任期満了に伴い、その後任として西川禰一工学部教授（計測制御工学講座担当）が4月1日工学部長に任命された。任期は平成7年3月31日までである。

**農学部附属演習林長**

和田茂彦農学部附属演習林長の任期満了に伴い、その後任として神崎康一農学部教授（林業工学講座担当）が4月1日農学部附属演習林長に任命された。任期は平成7年3月31日までである。

**人文科学研究所長**

吉川忠夫人文科学研究所長の任期満了に伴い、その後任として阪上 孝人文科学研究所教授（西洋社会研究部門担当）が4月1日人文科学研究所長に任命された。任期は平成7年3月31日までである。

**胸部疾患研究所長**

久世文幸胸部疾患研究所長の任期満了に伴い、その後任として泉 孝英胸部疾患研究所教授（環境生態学研究部門担当）が4月1日胸部疾患研究所長に任命された。任期は平成7年3月31日までである。

**木質科学研究所長**

佐々木 光木質科学研究所教授（構造機能研究部門担当）が4月1日木質科学研究所長に再任された。任期は平成7年3月31日までである。

**ウイルス研究所長**

畑中正一ウイルス研究所教授（がんウイルス研究部門担当）が4月1日ウイルス研究所長に再任された。任期は平成7年3月31日までである。

**東南アジア研究センター所長**

矢野 暢東南アジア研究センター教授（統合環境研究部門担当）が4月1日東南アジア研究センター所長に再任された。任期は平成8年3月31日までである。

**放射線生物研究センター長**

武部 啓放射線生物研究センター長の任期満了に伴い、その後任として佐々木正夫放射線生物研究センター教授（突然変異機構研究部門担当）が4月1日放射線生物研究センター長に任命された。任期は平成7年3月31日までである。



**放射性同位元素総合センター長**

栗原紀夫放射性同位元素総合センター教授（薬物代謝生化学担当）が4月1日放射性同位元素総合センター長に再任された。任期は平成7年3月31日までである。

**情報処理教育センター長**

山田善一情報処理教育センター長の任期満了に伴い、その後任として矢島脩三工学部教授（論理回路講座担当）が4月1日情報処理教育センター

長に任命された。任期は平成7年3月31日までである。

**体育指導センター所長**

田口貞善体育指導センター所長の任期満了に伴い、その後任として六車 照防災研究所教授（地盤震害研究部門担当）が4月1日体育指導センター所長に任命された。任期は平成6年3月31日までである。

**<栄誉>****理学部 神保道夫教授が  
日本学士院賞を受賞**

この度、理学部<sup>じんぼう</sup>神保道夫教授に日本学士院賞が授与されることになった。授賞式は6月上旬、日本学士院会館で行われる予定である。



神保教授は昭和26年11月28日千葉県に生まれた。昭和49年東京大学理学部を卒業、同51年本学大学院理学研究科修士課程を修了し、同年本学数理解析研究所助手、同63年本学理学部助教授、平成4年本学理学部教授となり現在に至っている。

神保教授は、一貫して数理解析と関連した数学の研究に取り組んできた。初期の仕事としては佐藤幹夫氏（本学名誉教授）三輪哲二氏（数理解析研究所教授）との共同研究である2次元 Ising 模型の相関函数の研究が著名である。統計物理学の研究対象である2次元 Ising 模型は1944年 Onsager による厳密解の発見以来、主として物理学者によって研究されて来たが、佐藤、三輪、神保の三氏は、Ising 模型の  $n$  点函数の数学構造は、線型微分方程式のモノドロミーを保存する変形を考えることによって説明できることを明らかにした。変形理論は前世紀末から今世紀初頭にかけてドイツ、フランスで純粋に数学的興味から研究されていたが、理論物理学と思いがけない関

連が見出されたことを意味する。さらに神保教授は三輪氏と共に、ほとんど忘れ去られていたこの変形理論をさらに深化させ、この理論は今日では数理解析で大切な役割を果たしている。

神保教授は、この研究のあと、1980年代前半にソリトン理論と無限次元リー代数の表現論との深い関係を三輪氏、柏原正樹氏（数理解析研究所教授）伊達悦郎氏（大阪大学基礎工学部教授）との共同研究によって明らかにした。ソリトンとは浅い水を一定方向に進む波と類似の性質を持つ孤立波で粒子的な性質を持つことで知られており、非線形波動として種々の物理現象に登場する。一方リー代数は対称性を記述する数学の大切な概念である。前世紀後半ノルウエーの数学者 Lie は、リー代数（正確にはリー変換群芽と言うべきだが）を使って微分方程式を統一的に取り扱うことを夢見て、リー群、リー代数に関する基本的な研究を行った。

神保教授らの研究は Kodamtsev-Petviashvili 方程式系（プラズマ中の孤立波を記述する非線型微分方程式とその一般化）に対して、無限次元リー代数を使って Lie の夢を実現したものである。

有限次元リー代数は Lie の研究以降多くの研究がなされ、今日では数学、理論物理学の基本的な道具となっている。これに反して、無限次元リー代数は Lie の時代から登場したにもかかわらず、1960年代後半から70年代にかけて始めて本質的な進展があった。ここでも理論物理学との深い関係

が見出された。神保教授は、無限次元リー代数の表現論と統計物理学の2次元可解格子模型とに関係があることを見出し、三輪氏等との共同研究によって、ある種の可解格子模型の局所状態確率を無限次元リー代数の表現を使って記述することに成功し、可解格子模型の研究に新局面を開いた。可解格子模型の研究を通じて、神保教授は、今日「量子群」と呼ばれる重要な数学的概念を導入した。量子群はDrinfeldによっても同じ時期に独立に発見された。その後の研究により量子群は可解格子模型のみならず2次元の場の量子論でも基本的な役割を果たすことが明らかになり、今日では数理論理学においても基本的な概念である。神保教授は量子群の概念を導入したのみならず、その理論を発展させ、可解格子模型の理論に積極的に応用して重要な成果を挙げつつある。可解格子模型の研究では、神保教授を中心とする日本の研究グループが世界の研究の中心の一つとして注目

を集めている。

神保教授の研究は数学と理論物理学との交流を通じた数学の進展の最前線を担うものであり、その研究成果は内外の数学者、数理物理学者から高く評価されている。また数学と理論物理学との交流による数学の進展は21世紀へ向けての数学の新しい方向への進展と考えられ注目されている。すでに科学研究費補助金でも重点領域研究231「無限自由度の可積分系の理論とその応用—幾何学、解析学の新展開—」が平成4年度より5年間の予定で発足し、神保教授はその中心メンバーとして活躍中である。

以上のように神保教授の目覚ましい業績を考えると、その受賞はまことに喜ばしい。

今後の同教授の研究のさらなる発展を期待したい。

(理学部)

## 計 報

### 岩 口 康 之 文 部 事 務 官

文部事務官 岩口康之氏は、3月12日逝去された。享年27。

同氏は昭和59年本学理学部勤務、以後ウイルス研究所、医学部附属病院を経て平成3年に経理部に配置換え。この間、経理関係業務に尽力された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(経理部)

## <資料>

### 平成4年度京都大学職員研修実施状況及び 平成5年度京都大学職員研修実施計画

#### 平成4年度京都大学職員研修実施状況

大学における職員研修は、官職の職務の遂行に必要な知識・技能等を習得させ、かつ職員的能力・資質等を向上させることを目的として実施するものである。

平成4年度における本学主催の職員研修実施状況については、次の表に掲げるとおりである。

なお、平成4年度の特徴としては、①前年度の

研修方針を継承して研修内容の充実を図ったこと。②総合技術部の発足に伴い、技術官及び技術官補(京大広報No.406参照)に対して、前年度に引き続きより高度な内容の研修を実施しているが、今年度で二巡したこと。③今年度から新たに近畿地区国立学校等が共催してⅡ種試験採用の若手職員に対する合同研修を実施し、本学が当番を担当したこと等が挙げられる。

( ) 中は他機関の受講者数で内数

研修の名称	実施期間	対 象	受 講 者 数			研 修 場 所
			男	女	計	
新採用職員研修	4/ 6～4/ 9 (4日間)	新採用職員	40	15	55	国立若狭湾少年自然の家
主任研修(第1回)	5/26～5/28 (3日間)	主任(他機関を含む)	23( 8)	24(0)	47( 8)	関西地区大学セミナーハウス
〃 (第2回)	11/17～11/20 (4日間)	〃	24(10)	23(1)	47(11)	国立曽爾少年自然の家
監督者(係長級)研修	9/ 1～9/ 4 (4日間)	係長(他機関を含む)	32( 8)	6(1)	38( 9)	農学部附属水産実験所
技術職員研修(第8回)	7/14～7/17 (4日間)	行(一)教室系技術職員 (他機関を含む)	65( 5)	6(0)	71( 5)	附属図書館ほか
〃 (第9回)	2/ 2～2/ 5 (4日間)	〃	75( 2)	10(1)	85( 3)	〃
中堅職員研修(第8回)	6/23～6/26 (4日間)	事務系職員 (採用後4年以上)	33	7	40	京大 会 館
実務研修 (施設系・第4回)	6/23～6/26 (4日間)	施設系技術職員	9	0	9	〃
語学研修(英語・初級)	5/ 8～8/ 7 (60時間)	事務系職員	3	17	20	附属図書館
〃 (英語・中級)	8/28～12/15 (60時間)	〃	4	12	16	〃
合 計			308(33)	120(3)	428(36)	

近畿地区国立学校等 Ⅱ種採用職員合同研修	10/20～10/23 (4日間)	共同面接により事務 系官職に採用された者	44(24)	12(7)	56(31)	関西地区大学セミナーハウス
-------------------------	----------------------	-------------------------	--------	-------	--------	---------------

近畿地区国立学校等が主催であり輪番制であるが、本年は本学が担当

## 平成5年度京都大学職員研修実施計画

平成5年度の京都大学職員研修実施計画は以下のとおりである。

研修の名称	実施時期	対 象	予定 人員	研 修 場 所	備 考
新採用職員研修	4/ 6～4/ 9 (4日間)	新採用職員 (他機関を含む)	50	国立若狭湾少年自然の家	4/ 6 附属図書館
国際交流担当職員研修	9/ 8～9/10 (3日間)	事務系職員 (採用後3年～)	25	附属図書館	
中堅職員研修(第9回)	6/29～7/ 2 (4日間)	事務系職員 (採用後4年～)	50	京大 会 館	
主任研修(第1回)	6/ 1～6/ 4 (4日間)	主任(他機関を含む)	50	関西地区大学セミナーハウス	6/ 1 附属図書館
〃 (第2回)	11/ 9～11/12 (4日間)	〃	50	国立曽爾少年自然の家	11/ 9 附属図書館
監督者(係長級)研修	10/ 5～10/ 8 (4日間)	係長(他機関を含む)	35	理学部附属瀬戸臨海実験所	10/ 5 附属図書館
技術職員研修(第10回)	7/13～7/15 (3日間)	行(一)教室系技術職員 (他機関を含む)	70	附属図書館ほか	
〃 (第11回)	2/ 1～2/ 3 (3日間)	〃	70	〃	
語学研修(英語・初級)	5/ 7～8/17 (60時間)	事務系職員	20	附属図書館	週2回 (1回2時間)
〃 (英語・中級)	8/31～12/14 (60時間)	〃	16	〃	〃

